

## 18 障害をもっても地域で暮らせるまちづくりに関する研究

－ピアサポート・地域住民との関わり・地域への貢献－ その1

研究所障害福祉研究部 八巻知香子 山根耕平 河村宏

### 【精神障害者へのスティグマと地域住民の理解】

精神障害はもつともスティグマの強い障害といわれており、障害をもつ人は差別を恐れて自らの障害を明かすことは少ないが、障害を隠す対処は、周囲の人との関係を希薄にし、孤立を深めることになりがちである。また、精神障害者のための施設、作業所等の建設にあたっては住民からの反対運動が起こることもしばしばある。

このような日本の一般的現状の中で、北海道浦河郡浦河町は、精神障害のある人々が自ら障害を明かし、障害のない住民との関係を築きながら生活している「浦河べてるの家」の活動は広く注目を集め、マスメディアにも紹介されている。（浦河べてるの家の活動の詳細については第二報参照）。障害のない地域住民が、浦河べてるの家およびそのメンバーをどのように理解し、受け入れているのか、またトラブルがあるのであればそれがどのようなものを明らかにすることは、他地域への応用を考える上で有効と考えられる。べてるの家のメンバーが居住するグループホームの近隣住民12名への聞き取りを行ったので報告する。

### 【地域住民は精神障害者当事者グループをどのように受け止めているのか】

グループホームに住む人との関わりにおいて、表面化したトラブルはほとんどなく、挙げられたことはゴミの出し方、路上での喫煙、近所づきあいの手さ（旅行に行ったときにお土産を配る習慣を守らない）など、精神障害故の問題行動や恐れというよりは、住民のマナー・慣習からはみ出す日常的な行為が指摘された。障害やグループホームという居住形態に関連した指摘としては、何らかのトラブルが発生した際に誰が責任者であるのかが近隣住民から見ると不明確であること、問題行動がないとしても住民と顔を合わせる機会が少ない人に対する不信感、片づけが不得意な利用者の喫煙に対する火の始末への警戒感挙げられた。商業地区の住民は、浦河べてるの家が有名であることによる経済効果も言及した。

### 【協働プロジェクトの概要と今後の計画】

国リハ研究所および浦河町、浦河べてるの家は、障害者や高齢者を含む全住民が安全に避難できるまち作りのためのプロジェクトを協働で進めている。このプロジェクトを通じて、精神障害の当事者と住民との交流の機会は増加することが見込まれている。このプロジェクトによって住民の理解にどのような変化が見られるのかについても追跡研究を行う予定である。